

IEA石油市場レポートの概要（2017年12月14日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 世界の石油需要の成長について、2017年に150万バレル/日（1.6%）増加、2018年に130万バレル/日（1.3%）増加としていたこれまでの予測を維持する。ナイジェリア、ドイツ及びイラクについてのデータを見直し、石油需要の基準をおよそ20万バレル/日引き上げた。
2. 11月の世界の石油供給は20万バレル/日増加し、9,780万バレル/日となった（これは米国の生産増によるものであり、今年最高の水準）。それにもかかわらず、ロシアや中東のOPEC加盟国が記録的な生産を行った1年前と比較すると、110万バレル/日低い水準である。OPEC非加盟国は、2017年に60万バレル/日の増産、2018年には160万バレル/日増産するだろう。
3. 11月のOPEC加盟国からの原油供給は、4ヶ月連続の減少で3,236万バレル/日となった（前年より130万バレル/日減少）。サウジアラビア、アンゴラ及びベネズエラでの生産が減少した。減産協定の遵守率は115%に上昇し、今年最高となった（2017年の平均は91%に上昇）。
4. 10月のOECD加盟国の民間石油在庫は4,030万バレル減少し、29億4千万バレルと、2015年7月以来の低い水準となった。過去5年間の平均より、1.11億バレル高い水準。10月の中国の原油在庫量は過去一年で初めて減少する見込み。11月の世界の石油在庫量の暫定データは、増加と減少が混じった複雑な状況を示している。
5. 11月の原油指標価格は、バレル当たり4-5ドル上昇し、12月始めには過去2年で最高の水準で取引された。OPEC加盟国・非加盟国の減産協定の延長や、その後の北海の石油パイプラインの閉鎖が要因となった。
6. 2017年第3四半期の世界的な精製量は記録的高水準となり、8,120万バレル/日に達した（ハリケーンハーヴェイの影響があったにも関わらず）。しかし、第4四半期は施設のメンテナンスにより減少した。11月の世界的な精製マージンはバレル当たり1ドルほど減少した。